

事業主体

大阪体育大学 社会貢献センター

調査研究名

スポーツの持つコミュニケーション力による街づくり

調査研究の概要

- 1) 高齢者の体力測定(運動指導・認知機能を含む)
- 2) 復興住宅集会所のサロンでのレクリエーション活動効果測定
- 3) 地域ふれあい交流会での活動効果測定
- 4) 地域スポーツクラブ活動の支援の結果測定調査

実施内容

- 1) 50 歳以上の方を対象に実施。毎回参加していただいている方が多く、以前のデータと比較し、アドバイス・プログラムを指導した。(小高体育センター)
- 2) 学生がレクリエーション活動後にアンケート調査を実施。参加者すべてが女性であり、8 割の方が日ごろから運動を実施している。運動頻度は「週 3 回以上 5 回未満」と回答。また「健康維持・体力測定」や「他の人と交流できるゲーム」「ダンスを見せてほしい」などの要望があった。レクリエーション活動の実施には大変満足したという結果が明らかになった。(原町区復興住宅集会所サロン)
- 3) 交流会を実施し、参加者にアンケートを依頼した。男性が 6 割、女性が 4 割。「30 歳～40 歳」が 8 割を占めた。日ごろの運動は 8 割の方が「していない」と回答。参加理由は「面白そうだったから」「体を動かすのが好きだから」という意見が多く、「他の人との交流のため」という意見は少なかった。しかし満足度は「他の人と交流ができた」という参加者が多数いた。(小高区 4 小体育館)
- 4) スポーツクラブや消防団に所属している小学生に支援活動を実施し保護者の方にアンケートを依頼した。女性が 9 割を占めた。「30 歳代」「40 歳代」が多かった。参加理由は「大学生との交流」「新しいスポーツへの関心」「指導方法」などの意見が多く、体育大学特有の取り組みが評価されている。また、「体感を鍛える練習方法」「これからも継続してほしい」という要望をいただいた。(鹿島区地域スポーツクラブ)

調査研究期間

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 16 日

南相馬市の課題

調査研究により

- ・同世代のコミュニティは存在するが、多世代のコミュニティがない。
- ・保護者世代(30 歳代～40 歳代)のスポーツ実施率が低い。
- ・運動習慣のない方の参加率が低い。

という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になった。

課題解決の提言

課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされる。

地域の様々な組織団体と連携を結び、スポーツイベントの開催やプログラムを共に考案し、地域の多様な組織団体が運営にかかわることで、年複数回のイベント実施を可能にするを考える。

市民が直面している問題・課題・ニーズをさらに調査していくことで、より南相馬市に即したイベントの提供につなげていく。